

おばさんへ

ラジオネーム：カクレクマノミ

このあいだ、パン屋に出かけ、「どわにしようかな」と選んでいた時、ふと「アップルパイ」が目に入り、普段はめったに選ばないけれど、なぜか気になって購入しました。家に帰り、その「アップルパイ」を口にしてびっくり。おばさんが作るアップルパイの味こそっくりなんかも。じいじとじい、おばさん(のじい)るに挨拶にいけていなかったから、まるで「私のこと覚えていぬ?」とおばさんが言っているみたいでした。

私にとっておばさんは、「アップルパイのひひ」でした。ちいせいのじい、おばさんと一緒に予定があるじい、必ず作ってくれくれたましたね。パイはサクサク、しっとりほろほろ、甘いけれども甘すぎず、シナモンも良いアクセントになって本当においしい。表面に星のマークをつけてくれる可愛いアップルパイはお気に入りでした。小さかったじいの私は、「しじいおばねと」なんて呼んでいましたね。今考えるじいちょっと失礼だったかな(笑)

今度は、私の息子に食べさせたいと、持病が悪化してしまい、入院中のおばさんに「また作って、食べさせよう」とお願いすも、その約束が叶わないまま、お別れでしたね。

四十九日をすぎたじい、おばさんの家族から「いんなものが出

てきたんだけど、知ってる？」と一枚のすこし古びた紙について尋ねられました。

知らないはありませんでした、それは、私が小学校低学年のころにかいた、おばさんとアップルパイの絵だったもの。クレヨンで大きく描いた、お世辞にも上手とは言えない絵だったけれど、大切にしてくれていたんですね。

私にとってのおばさんとの思い出に「アップルパイ」があったように、おばさんにとっての私との思い出に「アップルパイ」があったんだなと胸が熱くなりました。

それから数年。転勤で函館を離れてしまったこともあり、お墓参りもなかなか出来ずに、ごめんなさい。

今日は、息子と一緒にアップルパイ。おばさんのこと、伝えますね。

＜ アップルパイ      ／      バックナンバー      ＞